平成２８年度
備前市外部評価報告書

平成２９年４月

備前市行政評価市民委員会

１ 行政評価市民委員会

（１）委員会設置（運営）の目的

備前市まちづくり基本条例で要請されている外部評価を実施することにより、行政評価（内部評価）の客観性及び透明性を確保するとともに、施策や事業の必要性、成果等について検討や検証を行うことで、市民の視点に立った効率的かつ効果的な行政経営を推進する。

（２）役割

次に掲げる事項について審査および検討を行い、これに係る意見または提案を市長に報告する。

① 市が実施した施策評価および事務事業評価の結果

② 市の行政評価システムの改善

（３）構成委員（７人以内）

№.	氏名（ふりがな）　敬称略	区分	職業・所属等	備考
1	片山　鐵男　（かたやま　てつお）	市民公募	無職	
2	原田　正志　（はらだ　ただし）	市民公募	地区公民館長	
3	船橋　美可　（ふなはし　みよし）	市民公募	備前市観光協会	
4	朝倉　栄美　（あさくら　てるみ）	市民公募	備前市地域おこし協力隊	
5	大森　早百合（おおもり　さゆり）	市民公募	個人事業主	
6	世羅　　徹　（せら　とおる）	学識経験	有限責任監査法人トーマツ 公認会計士	委員長
7	佐藤洋一郎（さとう　よういちろう）	学識経験	岡山県立大学　教授	

（４）委員会活動経過

回	日時	具体的活動内容
第１回委員会	平成２８年８月１日（月） １３：３０～１5:３０	○委員長（座長）選出 ○評価対象「施策」の選定（６施策）
第２回委員会	平成２８年９月２日（金） １３：３０～１７：00	《施策１～２》 ・評価対象施策所管課との質疑応答 ・市民評価シート作成
第３回委員会	平成２８年１０月４日（火） １３：３０～１７：００	《施策３～４》 同上
第４回委員会	平成２８年１１月１１日（金） １３：３０～１７：００	《施策５～６》 同上

場所：第1回：備前市役所　南応接室/第2.3回　備前市役所　3階大会議室/第4回　保健センター3階 研修室

2 外部評価（委員会評価）の評価対象施策

評価対象とする施策については、テーマを絞らず、各委員が「評価したい施策」を選出することとして協議を行い、以下の９施策を選定した。

No.	コード	施策名	所管課	領域
①	06-10-47	積極的な人材育成･能力開発と組織の活性化	総務課	見直し
②	04-06-22	国民健康保険･後期高齢者医療の適正運営と国民年金の事務執行	保健課	維持
③	05-08-37	地域情報化の推進	企画課	―
④	05-07-28	賑わいをもたらす観光の振興	まち営業課	検討
⑤	01-01-02	就学前の教育、保育等の充実	こども育成課	検討
⑥	04-05-15	身近な安全・安心対策充実	総務課	維持

※【領域の説明】施策の重要度と満足度を5段階（例―5:重要、4:やや重要、３:どちらともいえない、2:あまり重要でない、1:重要でない、0:わからない・意見なし）で評価していただきました。対象施策（42施策）の平均値を区分線として、縦軸（満足度）・横軸（重要度）で下記の4つの領域に区切ったものです。

「維持領域」　…重要度高い・満足度高い
　　→現状の方向を継続
「見直し領域」…重要度低い・満足度高い
　　→その施策や事業が必要か否かの検討が必要
「強化領域」　…重要度高い・満足度低い
　　→内容等を見直し、市民満足度を高める事業を行う
「検討領域」　…重要度低い、満足度低い
　　→その施策や事業の存続の検討が必要

3 評価結果

（１）評価５項目の点数化

評価の視点を５項目（成果指標の妥当性、事務事業評価の適当性、施策の有効性、進行年度の取組内容、翌年度の取組目標）とし、それぞれの視点ごとに３点満点で評価した。

【委員７人の評価平均点】

回		第２回委員会		第３回委員会		第４回委員会	
日付		９／３（金）		１０／４（火）		１１／１１（金）	
評価対象施策 ＼ 評価の視点		積極的な人材育成・能力開発と組織の活性化	国民健康保険・後期高齢者医療の適正運営と国民年金の事務執行	地域情報化の推進	賑わいをもたらす観光の振興	就学前の教育、保育等の充実	身近な安全・安心対策の充実
成果指標の妥当性	（平均点）	2.1	2.4	1.9	1.3	2.3	1.9
事務事業の適当性		2.1	2.5	1.9	1.4	2.1	2.0
施策の有効性		2.5	2.5	1.9	2.0	1.9	1.9
進行年度の取組内容		2.4	2.5	2.1	1.4	1.9	1.7
翌年度の取組目標		2.5	2.5	2.0	1.6	1.9	1.9
合計（合計点）		79.0	81.9	64.8	51.4	66.7	61.9

【点数における外部評価結果】

適正な評価						
概ね適正な評価	○	○				
一部不適正な評価			○	○	○	○
不適正な評価						

● 各施策の評価結果

① 06-10-47　積極的な人材育成・能力開発とその期の活性化

	内部評価	外部評価（３点満点）
施策評価シートのわかりやすさ		・文章は、市民にわかりやすいものになっている。 ・専門用語の説明が不足している(定員適正化計画など) ・専門用語もあるが、この施策では、致し方ないかと思う。 ・行政用語を極力、市民目線で表記して欲しい。
成果指標の妥当性	【4 高い】 顧客の満足度の視点で客観的に判断できる適切な指標であり、妥当性は高い。	【平均2.1点】 ・市民が満足する目標値であるなら、80～90%を目指すべきではないか。 ・施策評価シートの対象と目標から考えると2つの指標だけでは施策成果指標が少ない。 ・事務事業評価シート「03　公平委員会事務委託事業」目標数が0件であり、実績も0件が続いている。この状態で問題もないのか。 ・事務事業評価シート「06　福利厚生事業」の成果指標を特定健診で指導を受けた率の方が良いのではないか。 ・法令で義務付けられている事務だから遂行しているようにしか思えない。
事業構成の適当性	【4 高い】 事務事業の構成は適切であるが、PDCAサイクルを常に意識して、さらに質を上げる改善が必要である。	【平均2.1点】 ・PDCAサイクルを意識して質を上げるには、どこがどう不足しているかしっかり検証して欲しい。 ・事務事業評価シートの個々の事業の指標が適正でないものがあり、事業の進捗状況が理解しにくいものがある。 ・事務事業評価シート「01　定員管理事務」効率性の評価で印をつけた説明が欲しい。 ・事務事業評価シート「04　職員研修事務」効率性、有効性の評価をDからCにしてもよいのではないか。 ・事務事業評価シート「06　福利厚生事業」の効率性の評価をCからBにしてもよいのではないか。
施策の有効性	【4　高い】 職員数は逓減化傾向の中、定員適正	【平均2.5点】 ・指標分析は、とても的確である。計画的な

	化計画にほぼ沿った形で定員管理を行っている。 　しかし、事務職員の採用凍結・抑制を行ってきた弊害として、30歳代の職員数が他の年齢層との比較では著しく少ない現状であり、今後は計画的に若年層の職員を採用していく必要がある。	職員採用をして欲しい。
進行年度の取組内容	人材育成基本方針の理念の浸透を図り、掲載された具体的な取り組みについて実施していく。 　　また、同方針に基づく人材育成型の「トータル人事システム」（「組織の経営目的にかなうよう人事の基本的な考え方を明確にし、人事関連諸制度が、総合的に最大効果を発揮させるためのシステム」）構築の取り組みを進めていく。	【平均2.4点】 ・課題と思われる記載がない。 ・取組内容は、市民に対して説得力がない。報告書にすぎない。 ・市民の認識が低いのは何故かの具体策や取り組み姿勢が感じられない。
翌年度の取組目標	人材育成型の「トータル人事システム」に基づき、採用・任用、人事制度、職場づくり、能力開発、人事評価を積極的に実践していく。	【平均2.5点】 ・問題解決に向けての取組が文章からとらえられない。課題を一つ一つ上げていき、どういう解決策を取るか探して欲しい。

【上記以外の内部評価への指摘事項】

・この事業の取組によって事務事業の効率的な運営・財政支出、見直しや市民の視点に基づく市民サービスの向上及び職員の意識改革に寄与したかの内容がわからない。

【提言】

・施策評価シートと事務事業評価シートの目標設定には、ブレイクダウンとして上位の目標を下位展開していく目標の連鎖の取組が少ないような感じがする。

・総合計画に達成すべき目標があり、そこから、政策目標、主要施策、施策、事務事業とつながっていることを市民、職員、関係団体などに理解してもらうことが大切だと考えています。

・近年の市の窓口対応は、とても好感が持てる。市民窓口課、国保税、保健課の窓口に行ったが、職員の窓口対応に問題はなく、業務を理解していてわからないことは教えてもらえた。満足度が目標数値に達していないのは、窓口対応が良くないと考えている人にアンケートを答えてもらったのではないかと思いたくなる。

・新定員適正化計画に基づき、適正な職員配置を行い、市民サービスの向上を目指している。職員の減少する中で優秀な職員の育成をして欲しい。職員のメンタル面にも気を配っているのがわかった。

② 04-05-22　国民健康保険・後期高齢者医療制度の適正運営と国民年金の事務執行

	内部評価	外部評価（３点満点）
施策評価シートのわかりやすさ		・保険特有の用語がありわかりにくいところがある。 ・独特の用語があり、難解である。
成果指標の妥当性	【4 高い】 生活習慣病予防のために実施している特定健診の実施率が上がることで、早期発見・早期治療につながり、ひいては医療費の削減となる。医療保険制度の安定的運営のためにも特定健診実施率は重要な指標であり妥当である。国保税収納率は既に平成28年度の目標を達成できているが、さらに収納率の向上を目指す。	【平均２.4点】 ・国保税の収納率の目標値は１００％とすべきではないか。 ・それぞれの目標値の設定は、妥当と思う。特定健診の受診率は、全国と比べるベンチマークも必要ではないか。 ・事務事業評価シート「01　国民年金事務事業」の広報掲載回数は、指標は、一方方向ではないか。 ・事務事業評価シートの個々の事業の指標が適正でないものがあり、事業の進捗状況が理解しにくいものがある。
事業構成の適当性	【4　高い】 資格管理、給付管理を適正に行っている。また、年金は国の法定受託事務であり、適当である。	【平均２.5点】 ・事務事業評価シート「02　国保運営事業」効率性をBとしているが、Cの方が妥当ではないか。 ・事務事業評価シート「03　給付事業」有効性をBとしているが、Cの方が妥当ではないか。 ・事務事業評価シート「05　後期高齢者医療事業」妥当性、有効性、総合の評価をBからAにしてもよいのではないか。
施策の有効性	【4　高い】 参考指標②、③については、目標の達成ができている。特定健診実施率を向上させるとともに特定保健指導実施率を向上させることにより、生活習慣病の通院患者を減らし、さらには重症化を抑え、入院患者を減らすことで医療費の伸びを抑制していきたい。	【平均2.5点】 ・指標の分析がよくできている。 ・日生、伊里地区が特定健診受診率が低い理由の分析が、通院状況や医療費の平均からなど具体的に分析で来たらなお良いのではないか。
進行年度の取組内容	○継続した収納率向上対策を実施し、収納率の向上に努めるとともに引き続き適正な給付事業を行う。 ○Bポイント制度を活用しながら特定健診受診率の向上に努める。また、	【平均2.4点】 ・要点をわかりやすくまとめており、よく理解できた。 ・生活習慣病の通院患者の削減及び重症化を抑えるための対策また、入院患者を減らす

	未受診者へ電話での受診勧奨の継続実施、協会けんぽと連携した集団特定健診などを行う。 ○データヘルス計画に基づいた保健事業を実施する。 ○年金に対する理解を高めるため、引き続き関係機関と連携し、啓発活動を行う。	ことで医療費の伸びを抑制する取組・対策がこのシートの中では、特定健診だけのように見える。口頭での説明を聞くとデータヘルス計画もあり、シートの中に説明があればもっとわかりやすくなるのではないか。 ・市民意識調査で、市民の満足度が平均より低い。何が不満となっているかの分析と、それを反映した取組が28年度、29年度に上がらないのか。
翌年度の取組目標	○継続した収納率向上対策を実施し、収納率の向上に努めるとともに引き続き適正な給付事業を行う。 ○Bポイント制度の活用、協会けんぽと連携した集団特定健診を実施するなど、受診率の向上を図る。 ○データヘルス計画に基づき、PDCAサイクルに沿った効率的かつ効果的な保健事業を実施していく。 ○平成30年度からの国保の広域化に向けた準備を進めていく。 ○年金については本年度と同様の内容を継続して努力する。	【平均2.3点】 ・複雑に変化する年金制度に対して市民にわかりやすく理解できるような周知活動に取り組んで欲しい。

【上記以外の内部評価への指摘事項】

・アピールポイントに、「本施策は概ね法定事業であり、適正な給付管理、収納対策などに努めている。」あるが、もっと市民にわかりやすい施策内容や方針を書くべきだ。

・「未受診者へ電話での受診勧奨の継続実施」「年金に対する理解を高めるため、引き続き関係機関と連携し、啓発活動を行う」に代表されるような文章は、市民に対して説得力がなく、報告書のようである。

【提言】

・施策に対する理解、何をどうやって進めていくのかよくわかった。今後の施策の進め方も良い方向と思う。この方向で施策を進めて欲しい。

・Bポイントの取組は良いものだと思う。地区のラジオ体操などの適用拡大を期待する。

● 各施策の評価結果

① 05-08-37　地域情報化の推進

	内部評価	外部評価（３点満点）
施策評価シートのわかりやすさ		・文章はわかりやすい。 ・IT専門用語は仕方がないが、できるだけ平易な説明を心掛けて欲しい。 ・専門用語や技術的文章が多く、市民にはわかりにくいのではないか。
成果指標の妥当性	【4 高い】 市民が超高速通信網を利用して各種端末やＣＡＴＶ等から情報を入手したり、様々な行政サービスを受けられるようにするという施策の目的・成果を表している。	【平均1.9点】 ・スマートフォンの普及を考えて、指標の変更、追加を検討してもよいのではないか。 ・目標値の設定は良いと思う。 ・何を利用するためにネットを整備するのかがない。
事業構成の適当性	【4 高い】 施策目的を達成するための事業構成となっている。	【平均1.9点】 ・現時点で、インフラ整備に重点を置いているならば、現在の事業構成でよい。 ・事務事業評価シート「02　ネットワークの維持事業」成果指標がトラブル発生の回数となっているが、回数よりも稼働率や停止時間の方が成果指標としては妥当だと思う。 ・事務事業評価シートで、事業の成果と成果指標を目標値に近づけることによりどのような成果があるかの説明が足りない。もう少し市民にわかりやすく説明を記入して欲しい。
施策の有効性	【3　どちらともいえない】 市民の満足度向上につながる光ファイバによる超高速ブロードバンドカバー率の向上に向けて取り組んでいる。有線テレビは番組の質の向上と効率化に取り組む必要がある。	【平均1.9点】 ・有線テレビの今後の展開について妥当であるか検証する必要がある。 ・評価が「3」成果指標はほぼ達成されている。本当に「3」でよいのか。 ・現時点で、インフラ整備に重点を置いているのならば、分析や判断は今のままで良いと思う。
進行年度の取組内容	吉永地域への光ファイバを整備する民間事業者へ補助することにより、光ファイバによる超高速ブロードバンドカバー率を１００％に近づける。また、実証実験で開発した市公式アプリの改修等を検討し、実用化	【平均2.1点】 ・インフラ整備後の施策の展開が書かれていない。IT、サテライトオフィス等の企業誘致などできないか。 ・市民は超高速通信が行える光通信サービスの展開を望んでいる。具体的にどの地域が

	に向けた評価を行う。	受けられないか、いつまでに100%になるのか、できない地域の理由を明記して欲しい。 ・インフラ整備は、使われないものを作っても使われない。整備はよく検討して欲しい。
翌年度の取組目標	市公式アプリを多くの市民に利用してもらえるよう、アプリの利便性向上やコンテンツの充実に努め、市民のＩＴリテラシー向上を図っていく。有線テレビは可視聴エリア拡大に向けた実証実験を行う。	【平均2.0点】 ・有線テレビは、備前市のホームページでもYouTubeで見られるので、エリア拡大する必要がないと思う。 ・CATVとインターネットの住み分けを明確にすべきではないか。 ・用途や市民からの要望を受けた整備への方向転換が必要ではないか。

【上記以外の内部評価への指摘事項】

・施策の中で複数課がまたがる評価の妥当性を考えるべき。組織の事務分掌のありかた、施策の事業の構成のありかたに問題があると思う。
・情報システムを活用することで、どれだけ事務が効率化され、住民サービスが向上し、人件費の削減に寄与したか等が住民に対してわかりにくい。
・目標を文章にする時、例えば「～便利にします。」と文章が終っているが、「便利になるため〇〇します。」と具体的に書いて欲しい。

【提言】

・ICTについての知識があり課長の説明は、わかりやすかった。
・番組制作事業を日生及び備前地域の一部に流しているとのことだが、市内全域に広げる予定はないか。防災の面で拡大の話は今までなかったか。加入者が増えれば、ＣＭ収入が増えコストも下がるのではないか。
・地域の活性化も含めインフラを整えたなら、子育て、引きこもり支援等IT産業の街など施策の展開を考えて欲しい。
・地域情報化の推進は、地方地域振興という面からも、重要な事だと思う。
・ICT環境のない人にも、充分に配慮してください。
・地域情報化の推進は、地域の人が知りたいときに知りたい人に情報が伝わる。人と人の繋がりを強くする。活力ある街を作るためと市民の信頼に応える為に、市役所の情報化が求められている。しかし、2年前の行政評価市民委員会で指摘した評価や対応策につながりが見られなかった。
・高齢者が増加しICTの利用が減になる可能性あり、高齢者の利用促進対策を考えるべきではないか。
・自治会長にタブレットを支給しているが、情報の共有を目的とした率や受信率や問合せ件数を把握できているのか。また、機器操作ができない市民は自治会長を引き受けたくなくなる。今でも自治会長を引き受けたくない市民が多くなっている状況にある。今後の取組や運営方法を検討すべきである。

② 05-07-28　賑わいをもたらす観光の振興

	内部評価	外部評価（３点満点）
施策評価シートのわかりやすさ		・身近な内容の施策であるのでわかり易い。事業対象の施設や地域を示した地図の添付があればよかった。 ・平易な文章でわかり易い。専門用語もなかった。 ・文章は、理解しやすかった。 ・平易でわかり易い文章になっている。
成果指標の妥当性	【4 高い】 観光施設の入場者数は観光客数の増減と比例するものであり、成果指標として妥当である。	【平均1.3点】 ・「市内観光施設の入場者数」は指標としては良いが、より正確な数値が収集できないか。データが把握できる方法を一考した方がよい。 ・「宿泊をともなう観光客を増やす」を課題にするならば、その内容を示す指標がない。 ・「観光ボランティアガイド登録者数」は参考にならない。稼働率としてはどうか。 ・観光客のリピート数、広域の回遊性の指標があればよい。 ・何を基にした目標値と実績数かわからない。
事業構成の適当性	【3　どちらともいえない】 観光振興を図る上での各種事業構成は、ほぼ適正である。	【平均1.4点】 ・現時点での成果指標を前提とすれば事業構成は妥当である。「宿泊型への移行」するならば、それに該当する事業がない。 ・「3」と評価するなら事業構成を考えて「3」以上となるように努力してください。 ・事業内容、事業構成の分別選定の余地がある。 ・事務事業評価シートの記載について、事業の内容の説明、関連事業との課題共有など、書き込みが不十分な点が見られる。また、一部事業内容の見直しを施策課題の内容から積極的に見直してもよいのではないか。
施策の有効性	【4　高い】 旧閑谷学校の日本遺産の認定や備前♡日生大橋の開通などの効果もあり、観光客数は若干増加しているが、その経済的効果が実感されるまでには至っていない。今後も観光客増加に向けた効果的取組を国、県、関係団体等連携	【平均2.0点】 ・分析は現時点では妥当である。課題が追加されるのであれば、指標を追加し分析して欲しい。 ・指標は向上しており分析は妥当。

	して実施していく必要がある。	
進行年度の取組内容	各種イベントやアンテナショップでの観光PR事業、バスツアーへの補助、備前焼の販路拡大、フリーWiFiスポットの整備や頭島レストランを通じての魅力情報の発信。	【平均1.4点】 ・課題は把握しているが、もう少し具体的な課題とならないか。 ・WiFiスポットを整備してITと観光のセットのまちづくりをして、観光客を増加させてください。 ・課題解決に向けて、各種団体、関係者も交えての協議会設置など必要ではないか。 ・課題に、広域化や他の事業との連携などもう少し大きな視点を取り入れて欲しい。 ・課題に、地域の観光客のニーズ、受入ニーズ、観光素材等踏まえた広域観光振興の視点を入れて欲しい。
翌年度の取組目標	SNS活用等による情報発信やインバウンド対応、備前焼の里の活性化。	【平均1.6点】 ・「宿泊型への移行」を課題にしたがその取組みがないと思う。 ・具体的な取組内容が明記されていない。そこが欠けている。 ・取組む目標は良いと思う。しかし、その為にどう行動をとるか、これをどうするかの具体策が見られない。 ・総合計画の達成に向けて、具体的な取組の提案が必要だと思う。 ・観光振興全体の目標をどうするか、これで良いのか考えて欲しい。 ・取組に、市内各地域に存在している「多様な観光資源の特性発揮」の視点を取り入れ、地域の協議会などの活動を支援するものを取り入れて欲しい。

【上記以外の内部評価への指摘事項】

・事業内容は言葉を並べるだけではなく、具体的に業務目標を「何を」「いつもでに」「どの水準まで」「どうする」と明確に表現して欲しい。
・市が担うべき役割、国・県・民間等がおこなうべき役割を考えてシート内に明記して欲しい。

【提言】

・今後数年かけて宿泊型観光にしてもよいのではないかと思う。
・旧閑谷学校と備前♡日生大橋の2つの効果以外にも、備前市の素晴らしい資源を掘り起こして経済効果を市民が実感できるようにして下さい。
・備前市は、体験できる海とみどりと炎のまちである。日帰り、通過型で観光客が減少なら、体験+指定宿泊(自治体所有)を県内外に売り込み、観光客増につながらないだろうか。
・一人の担当者がいくつもの事業を担当しているので、どうしても中心の1つか2つの事業に目を向

けがちである。大変だと思うが、週に一度は、全体を見渡して忘れていることはないか確認できるとよいのではないか。

- 来訪者への挨拶や接客マナー、応対の仕方等、市民自身の意識の向上がまだまだのようです。来訪者から「辛口」コメントもよく聞きます。市民意識をどのように変えていくかが、観光行政のポイントではないかと思う。
- 広域、民間との交流などもっと考えてもよいのではないか。
- 今後の事業の効果や効率をより高めるためにもよりたくさんの観光関連事業者との参画や連携を図る必要がある。
- ハコモノを造ることは、観光振興に必要ない。

● 各施策の評価結果

① 01-01-02　就学前の教育、保育等の充実

	内部評価	外部評価（３点満点）
施策評価シートのわかりやすさ		・おおむねわかりやすい ・わかり易い文章になっている ・補足説明資料があり、十分だった ・わかり易い文章である ・特に問題はない
成果指標の妥当性	【4 高い】 幼稚園的機能と保育所的機能の両方を併せ持つ幼保一体型施設の整備は、小学校就学前の子どもの教育・保育・子育て支援を一体的に行うことが出来ることから妥当と考える	【平均2.3点】 ・保護者アンケートの結果(内容)の情報も提示した方が良いのではないか ・指標は、妥当だと思う
事業構成の適当性	【4 高い】 各細事業とも、保育園・幼稚園教育の充実や保護者への支援を目的とした事業であり適正と考える	【平均2.1点】 ・努力して事業を進めているのがうかがえる ・もう少し詳細な理由を上げての表現とならないか ・こども園整備は、市民からするとサービスがあがったことが分かった ・事務事業の成果指標で、この指標の成果が何につながるか、設定は理由をもう少し説明して欲しい
施策の有効性	【4　高い】 今後も、幼保一体型施設の整備を計画的に推進する。また、就学前の子どもたちが、スムーズに学校教育に移行できるよう保育園・幼稚園・小学校が連携し小１プロブレムの解消に努める	【平均1.9点】 ・事務事業評価シートの事務事業の評価チェック欄に一部矛盾がある ・指標の中長期の達成見込みが分かりにくい
進行年度の取組内容	子育て世帯の負担軽減として、平成27年度から実施している4，5歳児の「保育料の無料化」を1～3歳児まで対象を拡大し実施する。また、小1プロブレム解消に向けて「保・幼・小接続スタンダードに係る研修会」の開催を行う	【平均1.9点】 ・小1プロブレムの解消に努めて欲しい ・課題把握が分かりにくい。課題に「担い手の確保の問題」「受益者負担のあり方」を考えるが解決策がない ・課題把握のための情報収集、具体的で深い解析が必要だと思う ・現場の声をもっときいれて課題を上げてもよいと思う ・先生への協力が課としてどこまでできるか常に考えて欲しい

翌年度の取組目標	平成30年4月の開園に向けて、伊部地域幼保一体型施設整備の建設を推進する。	【平均1.9点】 ・伊部認定こども園の整備に期待している ・こども園の整備だけでなく、人材を育てる教員の資向上と教員への細やかな配慮をお願いしたい ・職員が本来の保育が専念できる環境にして欲しい ・保護者アンケートの解析、特に不満を上げての解析する必要がある。 ・市民ニーズ、親のニーズをとらえているか考えて事業展開して欲しい ・延長保育が急増している。担当課として、いろんな面で教員、保育士の相談体制を整え、ストレスによる問題等が起きないよう指導して欲しい

【上記以外の内部評価への指摘事項】

・「教育のまち　備前」と「子育てしやすいまち　備前」に備前市が一生懸命に取組んでいるのがわかる
・「地方創生コモンズ　びぜん」にも期待したい
・平成29.3　吉永認定こども園完成に期待している
・事前質問の回答が「～思われます。～思います。～考えられます。」となっており把握実態を確認しての回答が欲しかった

【提言】

・閉園した施設を大人の生涯学習の場や子どもと大人が交流できる場所に再活用したらどうかと思う。教育のまちにふさわしいと思う
・家庭や地域における子育ての力の低下を背景に子育てに関する不安、母親の孤独かなでが指摘されている。また、少子化が急速に進み、子ども同士のふれあう機会が減少している中では、子どもが健やかに育成される環境づくりが大切だと思われる。そのような事業展開もこの施策の中でして欲しい。

② 04-05-15　身近な安全・安心対策の充実

	内部評価	外部評価（３点満点）
施策評価シートのわかりやすさ		・わかり易い文章になっている ・わかりやすい ・分り易い
成果指標の妥当性	【3　どちらともいえない】 人身交通事故の発生件数の減少は、交通安全を象徴する指標として妥当であ	【平均1.9点】 ・努力目標値がわかりやすい ・「この1年間に何らかの消費者トラブルにあ

	る。 今回、成果指標は目標を大きく上回っているが、一時的な結果である可能性がある。このような結果を継続でき、０件に近づけることが最終目標かと考える。また、この数年の実績から見ると目標値が低すぎるかもしれない。観光施設の入場者数は観光客数の増減と比例するものであり、成果指標として妥当である。	ったことがある市民の割合」の指標は、状況をあらわしている。今後、ネットが広がっていくに従い被害にあいやすい市民は増えていく、トラブルから回避できた、電話の誘いに迷わされなかったなどの指標とした方がよいのではないか ・指標は、わかりやすい。 ・指標数値がより高い目標値を上げており評価できる。現状に満足せず事業を行ってほしい ・駐輪場や駐車場問題は、全地域に関わる事なので指標をもってわかりやすく市民にしめせないか
事業構成の適当性	【3　どちらともいえない】 安全･安心な地域社会を目指す上で、交通安全、防犯活動、消費生活に関する事業は重点的なものと考えており、適当である。防犯カメラの設置については、防犯施設整備事業の中で実施しているが、細事業で項目を設けるべきだった。ただし、28年度までの事業なので、29年度以降は管理事業として事業を分けたい。	【平均2.0点】 ・事務事業の評価は高いが、施策評価の評価がそれに比べ低い ・事務事業評価シートの事務事業の評価チェック欄に一部矛盾がある ・「現状と課題」の欄に「高齢者の死亡事故、高齢者が第1当事者となる死亡事故が年々増加しています」とあり施策評価シートの交通事故発生件数は平成25年度から減少傾向にある。分析結果を踏まえての事業の展開があまり見受けられない
施策の有効性	【3　どちらともいえない】 継続的な実施が必要であるが、成果指標の目標値を変更し、より高い目標での実施を目指すべきと考える。	【平均1.9点】 ・交通対策、消費者生活について、市民の為に尽力して下さい ・指標を高めるための手段をもう少し明確にして欲しい ・「成果指標の目標数値を変更し、より高い目標で実施を目指すべき」とあるより高い数値目標を掲げ取組むことは良い事と思う。また、数値変更は容易であり実行しやすい評価見直しなので即実行して欲しい
進行年度の取組内容	交通対策については、子どもや高齢者の交通事故防止のため、交通安全教室の開催や街頭啓発を実施する。また、関係機関と連携をとりながら通学路の総合的な安全対策を実施する。地域防犯については、警察、市、地域が連携して防犯体制を強化するとともに、防	【平均1.7点】 ・事務事業の内容が変わらないなら成果指標を見直し事業展開をすべきではないか ・市民一人ひとりが自主的な防犯・交通安全意識が高まる取組を具体的に事業展開して欲しい

	犯灯、防犯カメラの整備を推進する。消費生活については、広報啓発活動や相談体制の充実を図る。	
翌年度の取組目標	本年度と同様の内容を継続するが、防犯カメラについては維持管理の事業を追加する。	【平均1.9点】 ・一人暮らしが多くなり、特殊詐欺被害防止啓発や巡回するシルバーサポートが必要と感じる ・積極的に新規事業を考えてみてはどうか ・優先順位の考え方を取り入れ今後の取組方向を記入して欲しい ・課題を明確に掲げて取組をして欲しい

【上記以外の内部評価への指摘事項】

・27年度の施策評価シートとほぼ内容が一緒である
・市独自の事業「スクールポリス」がある。予算を費やし行っている事業であり内容や成果が施策評価シートや事務事業評価シートのどこに現れるようにして欲しい

【提言】

・交通事故発生件数が減少しており、市、交通安全協会、交通指導などの各種団体の啓発事業の成果が見られる
・防犯カメラの設置をもっとPRして「安全・安心な備前市」であることを広めればよい
・地域防犯と防災と併せ、自治会、各種協力団体との協働の力による防犯を推進していただきたい
・要望の高い防犯灯の補助件数は、118件から2倍にできるのではないか
・防犯パトロールや防犯連絡員を増加させるための誘因策(例　市長、警察署長からの感謝状の贈呈など)を検討して欲しい